



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 177

2017年9月20日発行

九州支部長

9月も半ばを過ぎ日増しに秋を感じる頃となりました。あの猛暑が嘘のようです。また先日の台風18号は各地に大雨をもたらしました。せっかくの楽しみにしていた三連休の行事も中止になりがっかりされた方も多いと思います。会員の皆さまの地区は大丈夫でしたでしょうか？

秋の夜長と共に鈴虫の音色を楽しんでいます。先日知人が遊びに来た時、鈴虫を5匹持ってきてくれましたので玄関の扉のそばに置きました。2時間ばかり後、知人が帰ってから鈴虫の籠を見たら、なんと体長2ミリぐらいのアリの集団に襲われていて、羽や胴体がばらばらになっていました。どうやら置き場所が悪かったようです。アリがかたまって真っ黒になっていて、ふたを開けたら一列になって鈴虫を籠から運び出しアリの巣に運んで行きました。アリの獰猛さにびっくりして見ていました。後日、改めて鈴虫を頂き、今度は部屋の中に置いて音色を楽しんでいます。

秋は行楽の季節でもあります。九州支部でも毎年恒例の秋例会を今年は11月に計画しています。下に記していますのでどうぞご参加ください。

サーバス九州支部会報177号(2017年9月号)をお届けします。

掲載している内容は以下の通りです。

1. 秋例会へのお誘い
2. 折り鶴「GIFT」プロジェクト
3. トラベラー受け入れレポート
4. サーバス旅行レポート
5. シリーズ世界一周の旅
6. サーバス九州会員情報
7. サーバス九州からのお知らせとお願い
8. サーバス九州連絡先(常掲)

1. 秋例会へのお誘い

日 時 2017年11月25日(土)～26日(日)

宿泊場所 湯田温泉 セントコア山口

住 所 〒753-0056 山口県山口市湯田温泉3丁目2-7

電 話 083-922-0811

JRをご利用の方は新山口で降りJR山口線で6駅目の湯田温泉まで行く

(19分) そこからセントコア山口までタクシーが便利です。徒歩ですと20分ぐらいかかります。

参加費 1泊2食 12,000円
集合時間 25日(土) 14時 セントコア山口
解散時間 26日(日) 11:00~11:30
申し込み締め切り 9月30日 後からキャンセルできますので早めの申し込みをお願いします。
返信機能を使ってTまでお申し込みください。

訪問予定先は瑠璃光寺五重の塔、常栄寺雪舟の庭、ザビエル記念聖堂、中原中也記念館など。
湯田温泉は1日2,000トンの豊富な湯量を誇る天然温泉です。「美肌の湯」と言われアルカリ性が高い泉質でクレンジング効果があるそうです。湯田温泉は、かの高杉晋作、伊藤博文、坂本竜馬らも度々訪れ酒盛りをしていた場所だそうです。また日本のランボー（19世紀のフランスの詩人）と言われる詩人中原中也もこの土地で生まれ育ちました。

名所めぐりやサーバス旅行やホスト体験談など皆さまと楽しい1日を過ごしたいと思います。どうぞ皆さまのご参加をお待ちしています。

2. 「折り鶴 GIFT」プロジェクト

中国・四国支部&九州支部共同プロジェクトとして「折り鶴 GIFT」がスタートしました。内容はヒロシマ・ナガサキ来訪の記念として、「原爆の子の像」に奉納された折り鶴をサーバス・トラベラーとその友人たちにお分けする取り組みです。この折り鶴は全国各地の学童らが世界平和を願って折り続けたものです。広島・長崎来訪とうたっていますが、九州各県を訪れるトラベラーにも折り鶴をお渡しし、平和について一緒に考えていきたいと思っています。トラベラー受け入れ予定のある方は前もってお知らせください。折り鶴をお送りします。

3. トラベラー受け入れレポート

宮崎県会員 H. T.

- ① 氏 名 S. Z. (男性) 23歳
- ② 国 名 ポーランド
- ③ 滞在期間 2017年6月19日~22日、26日~28日
- ④ コメント

ポーランドからは初めての受け入れでした。空手、剣道など日本武道に大変興味・関心を持っていて、宮崎市内に空手道場を自分で見つけて練習に通うほど熱心でした。

我家に滞在中は綾町、青島、鶴戸神宮を妻や友人と共に案内しました。金髪でいわゆるイケメン青年だったので、どこに行っても女性には年齢を問わず、大人気でした。

ただ、彼がベジタリアンだったので、料理には少々頭を悩ませました。でも彼は、イタリア仕込みの Pasta を作ってくれて、みんなで大変おいしくいただきました。

4.サーバス旅行レポート

(1) アイルランドで病院に入院した事について 2017年5月15日～25日

佐賀県会員 K. M.

今年の5月に佐賀のサーバスメンバー3人、11日間のアイルランド体験最初は順調で、素晴らしい風景（青い海、緑の平原） 親切なホスト達、楽しい日々でした。ところが最後には、風邪をこじらせて肺炎になり Daisy Hill Hospital という公立の病院に急遽入院する羽目になりました。

高熱と咳、めまい、吐き気、頭痛、諸々 持参していたロキソニンで帰国まで持ちこたえようと努力したのですが、薬もなくなり万事休すでした。

入院時のCRP 27.5で緊急入院。5日間の抗生剤と栄養剤の点滴で目出度く治りましたが、帰国が5日伸びてホストや友達に多大なる迷惑をかけてしまって申し訳なく思った事でした。幸い皆様優しい方々ばかりで、無事に1人で帰国する事が出来ました。

旅行保険に加入していたので、お金の心配はなかったものの、やはり精神的に張りつめていたのでしょうか、老齢のせいでしょうか、帰国後も咳や吐き気がなかなか治らず病院通いが必要でした。10日余りで5キロ痩せました。

あれから3カ月が経とうとしていますが、今はあの苦しさも薄れ体重も元に戻りました。退院時、まだ弱っている私を自宅に連れ帰ってゲストルームに数日間居させて下さった私の担当の看護師Mさん あなたのご親切を決して忘れません。機会があればアイルランドのあなたに会いに行きたい



写真左： 最後の日のホストDさんと。お見舞いに来ていただきました。病室で点滴中の私。着ている紫の不織布は何故か術着。

写真右： 自宅でくつろぐ看護師Mさん。ビフォー50の綺麗な方です。

(2) ベルリン、北欧の旅 2017年8月4日～20日

福岡県会員 O. K.

(新入会員 6月入会)

初めてのサーバス旅行でした。ドイツのベルリン、ノルウェーのオスロ、ソグネフィヨルド、ス

ウェーデンのヨーテボリ、フィンランドのヘルシンキを約2週間かけて巡りました。入会前の面接では支部長の自然体で温かい対応に接し、またベルリンからヨーテボリまでは、本会をご紹介いただいたサーバス歴30余年の友人 N さんのサポートがあり、安心して出発し、旅行を満喫しました。

1) ドイツ；ベルリン

到着後、ホスト宅で手作りのプラムパイをいただき、観光に出かけました。初日は市内バスに乗り、暮らすようにベルリンを訪れている同行の友人 N に観光名所をガイドしてもらいました。映画『ベルリン天使の詩』で観たジークスゾイレやブランデンブルグ門の存在感、カイザー・ヴェルヘルム記念教会内部の青壁が特に印象に残っています。ペルガモン博物館、新博物館、ゲメルデギャラリー、ベルクグリュン美術館、ブレーハン美術館では、間近にゆったりと作品を鑑賞でき、贅沢な時間を過ごしました。これは北欧の全ての美術館で感じたことです。また、イースト・サイド・ギャラリーの距離を体感できたことは感慨深く、ベルリンの壁博物館では闇だけではなく、DDR博物館と同様に人間の逞しさ、創造性をも感じました。ビール祭り、蚤の市やスーパーマーケットでは珍しいものに遭遇し、用途や原材料などを想像して楽しみました。カーデーヴェー(高級デパート)が日祝定休なのは興味深く、コンビニエンスストアの利便性よりワーク・ライフ・バランスを重視するお国柄が伝わりました。

人生初のサーバス体験のホストは明るくさっぱりとした芸術・ガーデニング愛好家で、折り紙が上手でした。また、N さんのホストである S さんの友人の誕生パーティでトルコ料理と歌を満喫したり、S さんのご自宅にもご招待いただき美味しい手料理をご馳走になったりしました。部屋に花を絶やさないと心のゆとりは、言動、生活空間全てに醸し出されると思いました。パーティに向かう途中に使用したレンタカーは、携帯でアクセスして、路駐してある車を使うシステムで驚きました。2軒目のホスト宅のご主人はマンデラの生誕100周年事業に関わっておられ、映画『Invictus』に感銘を受けた私には嬉しい出会いでした。小柄な私は自分の脇ほどある調理台の高さには苦戦しましたが、天ぷらとお好み焼きは好評でした。

2) ノルウェー；オスロ、ソグネフィヨルド

ノルウェーに入る検閲で麻薬犬が反応し、寒い中全員バスから降ろされました。ターゲットとされた小袋は中まで徹底的に検査され、1時間程度予定より遅れて7時過ぎにオスロに到着しました。ムンク、国立と必見の美術館で実物の輝きに触れ、疲れは吹き飛び、大満足でした。しかし、好き過ぎて神様に悪戯されたのか、ヴィーグラン公園では豪雨に打たれつつ「怒りん坊(彫刻)」に直面となりました。夜はムンク、イプセン、グリーグが通ったというエンゲブレット・カフェでトナカイ料理をいただき、23:25発の夜行バスで、フィヨルドツアーの出発地ベルゲンへ向かいました。

7時頃ベルゲンに到着。まずは、ケーブルカーで標高320mのフロイエン山から町を一望に収め、魚市場で海老たっぷりのオープンサンド。ハンザ博物館、ブリッゲン、コーデ美術館を観光。魚介豊富な中華料理をテイクアウトして、ホテルでゆっくり食事。二日ぶりにベットに横たわり、平らに眠ることができる幸せを噛みしめて爆睡。

8:43 ベルゲン発の列車で9:56 ヴォス到着。10:10 発のバスでグドヴァンゲンへ11:20 着。12:30～14:50はフェリーでヨーロッパ幅が狭いネーロフィヨルドとアラウンフィヨルドを進みフロムに到着。乗り継ぎ時間の少ない予約が取れずに時間を持て余すかと思っていましたが、鉄道博物館

やビール工房、土産屋、スーパーマーケットなど巡り、すぐ出発時刻になりました。17:25 フロム鉄道でミュールダールへ。途中ショーズ滝では停車して、神秘的なパフォーマンスを観ました。18:17 列車に乗り、0:05 にオスロへようやく到着。長くエキサイティングな一日でした。ホテルの朝食に地方特産のキャラメルチーズ、パリパリワッフルメーカーがあり、食材も豊かでゆったり過ごしました。ノーベル平和センター、調理器具店、土産屋、電気器具店に寄り道しながら、14:30 のバスでヨーテボリに出発し、18 時過ぎに到着しましたが、観光案内所は閉まっており、ホスト宅へのバス停探し難航の中大雨となり、タクシーでホスト宅へ向かいました。

次回に続く

(3) ドイツ「ベルリン」(8月5日～7日)とスウェーデン「ヨーテボリ」(8月12日～15日)のサーバスメンバーを訪ねて

福岡県会員 T.N.

英語学習に熱心な友人、O.K.さん(6月入会)には以前からサーバスの素晴らしさを折々にお伝えしていましたが今回タイミングが合いそうだということで、一緒にサーバス旅行をしませんかとお誘いし急遽サーバスに入会していただきました。実際のところホストの方々とのコンタクトはOさんが担当してくださり一人ではできない色々な冒険を楽しむことができたのは心強い旅の道連れのおかげだったと感謝しています。

私は1983年4月、大学生だった頃にサーバスに入会し、トラベラーとしてもホストとしてもたくさんの素晴らしい出会いを経験をさせてもらっていますがサーバスのメンバーの方と旅をするのは初めてでした。

ここ10年くらいはサーバスを通じてご縁をいただいた友人たちを再訪することが多くトラベラーとして出かけるのは久しぶりでした。

最初の訪問地ドイツ、ベルリンでは2005年にサーバスでご縁をいただきお互いの家を毎年のように行き来しているCさんのお宅に滞在させていただきました。

Oさんは別のホスト宅に滞在しながらCさん宅で夕食をご一緒したり、またOさんのホスト宅での天ぷらパーティーに一緒にお邪魔したりさせてもらいました。

ベルリンは人口320万のドイツの首都でサーバスメンバーもベルリンだけで150名位いらっしゃるようです。以前ひと月近く滞在した際に月に1回開かれていたカフェでのミーティングに参加したことがあります。会員同士での交流が日常的にあるわけではなく近くに住んでいてもお互いご存じない方が多いようです。

OさんのホストのWさん&Mさんご夫妻もメンバーになって20年以上、Cさんは1990年からメンバー歴27年ですがお互いに初対面で、天ぷらパーティーのおかげで新しい接点ができたととても喜ばれていました。みなさん日常生活はそれぞれに忙しいのでなかなか会う機会がないのは日本でも同じですね。

ところで私は家で天ぷらを作ることはほぼないのですが今回Oさんが作ってくれたテンプラは衣が軽くてクリスピー、とっても美味しかったのでベルリンで体験した「天ぷらの衣」のご紹介です(^^)v

マヨネーズ大さじ3杯をスパークリングウォーターで溶いたところに小麦粉200グラムを加えて作った衣はサクツとして美味しくドイツの方にも大好評でした。

Wさんの大好きなクロムバッハーのデュンケルスビア(黒ビール)とともとてもよく合って

いました。

今回の旅の目的の一つはフィヨルド観光だったのですがフィヨルドのあるノルウェーでの日程がタイトでサーバス宅をお邪魔する余裕がなくホテルに宿泊、もしくは夜行バスや夜行列車といった20代の若者顔負けのハードスケジュールでしたが旅の道連れのおかげで楽しく乗り越えることができました。

フィヨルド観光の後、ノルウェーの首都オスローからバスで3時間半南下したところにあるスウェーデンで2番目に大きな都市ヨーテボリを訪ねました。北欧最大の貿易港があり古くは東インド会社の繁栄で栄えた街です。

最初のホストは本社がヨーテボリにある自動車のボルボ社で技術者として働いているCさん、Rさんご夫妻に二人のお嬢さん13歳のNちゃん、10歳のSちゃんの仲睦まじいファミリー宅で2泊させて頂きました。到着した日は土曜日の夕方、事前に教えてもらった公共交通機関を利用して訪ねるつもりでいましたがあいにくの雨模様となり土地勘もないのでタクシーに頼ることに。乗ったタクシーはボルボでした。

ドイツのタクシーはベンツが多く初めて乗るときは「ベンツのタクシー！」とちょっと感動しますが「ボルボのタクシー」も革張りのシートで乗り心地も良く嬉しくなりました。

1922年に建てられた3階建ての住宅を購入し外装に手を入れたり内装は自分たちで改装中とのことで私たちが訪ねた時も2階は工事中、日本人的な感覚だと「ちょっと落ち着かないから今はお客さんは無理」といった感じになるのでしょうかがヨーロッパの人たちはそれも含めて「今の我が家」に招いてくださることが多いような気がします。

余談になりますが以前ベルギーのブリュッセルのサーバスのお宅を訪ねたらダンボールがたくさん積み上げてあって「足の踏み場もないような」状態で聞くとなんと来週お引越し！それもオーストリアのウィーンですから国を超えてのお引越し直前に見ず知らずのゲストを迎える。。。いろんな意味でカルチャーショックでした。

私が泊めていただいたお部屋は狭い急な階段を上った屋根裏部屋で壁には刺繍で作られた素敵なタペストリーが飾ってありました。

楽しい絵柄で文字も添えてあったので意味を尋ねると「5人分のスープを用意していたら10人のお客さまが来てくれました、スープは水を足して増やしますから大丈夫」とのこと。北スウェーデンの村で農家を仕切っていたおばあさまの作品だそうで「オーブンドアー」のおもてなしの気持ちはお孫さんのCさんにも引き継がれているんだなあ、と感じました。

お料理はご主人の担当とのことでホタテとサーモンのバターソテーをフランスのワイン産地コート・ド・ローヌの名門醸造所ギガルの白ワインと合わせていただくという素敵なディナーでした(^^)v

食事の後はお嬢さんを交えてのボードゲーム、言葉でのコミュニケーションもさることながらゲームでの交流は喜怒哀楽や性格がダイレクトに伝わってきてその人を近くに感じる事ができてとても良いおもてなしだなあと感心しました。

Cさんはお仕事で日本に3回来日しているそうで、印象に残っていることを聞くとしょっちゅう耳にする「スママセン」という日本語がスウェーデン語でスイミングプールを意味する言葉「シンバセン」とほぼ同じ発音らしく最初に覚えた日本語だったとのことで「よく使ったわ」と楽しそうに話していました。

1985年、22歳だった時にサーバスを知り今では家族旅行で様々な国のサーバスメンバーを訪ねているそうです。次回に続く

(4) サーバスステイと北欧の旅 2017年 8月13～8月24日

長崎県会員 T.Y.

長崎県の公立中学校で英語教師をしている T と申します。日々、どうすれば生徒たちに外国語を学ぶ意義が伝えられるか、進んで学ぼうとする意欲を培ってもらえるかを考えながら、苦闘し、いろいろな学習会にも参加しています。今回は、元同じ職場だった先輩の O. T.先生と二人で北欧を中心に6カ国、駆け足で回ってきました。空港で「旅行中の共通語は、英語にしない？」と提案され、少し驚きましたがチャレンジすることにしました。途中、知らない間に日本語も大分出てきて immersion まではいきませんでした。サーバスの方との会話を含めれば13日間、かなり英語漬けでよい経験になりました。

午前10:00発の便だったので、機内では眠ることもなく積もる話をずっとしていたら、9時間半があつという間に過ぎ、ヘルシンキ空港に夕方到着。ヘルシンキの街は、落ち着いた雰囲気と洗練された品の良さを感じました。夜9時を過ぎても昼間のような青空と涼しくて爽やかな気候に北欧に来た実感がわいてきました。その日宿泊したユーロホテルでは、手動のドアで出入りするコンテナのようなエレベーターでしたので最初はびっくりしましたが、他の国でも見かけるようになり、次第に慣れていきました。ホテルのフィンランド式サウナでは、神戸から来た女性と話をしました。とても感じの良い方で、サーバスにも関心を持たれたようでした。

翌日は午前中いっぱいヘルシンキの市内を歩いてあちこちを見学し、午後、Turku の港までユーレイルパスを使って列車で移動。今回の目的の一つである車窓を楽しむ旅の始まりです。Turku ではストックホルム行きのフェリーに乗船するまで少し時間があつたので、荷物を預けて町を散策しました。古い素敵な教会で日本語を学ぶ若いフィンランド女性と出会って少しおしゃべり。思いがけない良いひとときでした。港に戻り、ナイトフェリーに乗船。豪華客船の中の一番安い船室のベッドで一泊し、早朝ストックホルム港に到着。そこでは、一人目のサーバスホストの J さんが温かいお茶を持ってお迎え。車のボンネットをテーブルに目覚めのティーを自宅から持参されたポットとカップで振る舞ってくださいました。早朝、しかも出勤前……。お心遣いに二人とも感激。ティー後は車で自宅に。私たちは仕事に出かける J さん夫妻を見送ったあと、水の都ストックホルムの観光に徒歩で出かけました。Nobel Museum, Vasa Museum を見学。ヴァーサ号は世界で唯一現存する17世紀の船舶で、沈没して333年後に発見されたそうですが、その原形の95%が保持されており圧巻でした。また、ガムラスタン(旧市街)では、数多くの中世の建物が存在し、現代の建物と融合している様子に不思議な感覚を覚えました。夜は、J さんのアパートのバルコニーから眼下に見える川面をまるで道路のように行き交う船やカヤックを眺めながら、ゆっくりとお食事をし、話をしました。

三日目。ストックホルムからオスロへ列車で移動。オスロ駅は大きな駅で人が多く、トイレも有料でちょっとびっくり。その日は、少し予定を変更して夜行寝台列車に乗ることになり、夜11時25分の列車に乗り込みました。翌朝5時過ぎにVoss 駅に到着。早朝のVoss 駅は、うっすらと街の明かりがとまり、幻想的な風景でしたが、疲れて写真を撮れなかったのを後で悔やみました。雄大で空気の澄んだ湖のほとりを歩き、ホテルへ。荷物を預けて、いよいよフロム鉄道とフィヨル

ド見学へ。フロム鉄道では、すっかり、ノルウェーの美しい景色に魅せられました。フィヨルド見学の船は、混んでいると聞いていましたが、それはツアーの場合。私たちが乗船した船の乗客はなんとアメリカからの女性2人と私たち2人の4人だけ。雄大な山々とそれに挟まれた深い海を滑るように航行していく2時間ばかりの静かな船旅を満喫。フィヨルド独り占め感があり、非常にラッキーでした。その日はVossに泊まり翌日オスロへ移動。

オスロでは、E & G 夫妻の家にステイ。家の中に、たくさんの素敵な英語の言葉が書かれた額がかけられ、授業に使えるかも？と、どんどん写真を撮らせていただいていたら、Gさんが次々に嬉しそうに紹介して下さり、子どもさん、お孫さんに囲まれ、温かい幸せが詰まったファミリーだと感じました。翌日は、Eさんがオスロの街を車で案内。広大なヴィーゲラン彫刻公園をゆっくり散策しました。モノリッテンの塔は14.12メートルの高さで、121人の人物像が浮彫にされていて、人間本来のいろんな生きざまが表現されていました。さらに、冬季オリンピックなどでも使用されたスキージャンプ場も見学することができ、初めて見たジャンプ台の高さに改めて感嘆しました。見学後はスウェーデンのヨーテンポリ経由でデンマークとの国境の港町メルモまで行き、翌日、コペンハーゲンに向かいました。

次回に続く

5. シリーズ世界一周の旅

シリーズ世界一周の旅

イタリア・ローマ編

熊本県会員 T.A.

前日にギリシャのサモス島を出港し、イタリアの港街 Bari に到着したのは、翌朝9時過ぎだった。港を降りて入国手続きの場所を探すのが分からず、近くの人に聞くともうすでにギリシャでユーロ圏への入国を済ませているので必要ないといわれる。ユーロ圏とはそういうシステムなのかとちょっと驚いた。要するに出国入国の手続きなしに国を出入りできるとは……。便利だけど保安のことを思うとちょっと複雑に感じた。

港からバスで移動し駅から列車でナポリ行きチケットを購入。(後から知ると Bari から近いアルベロベッロのかわいい白壁と石屋根の家を見に行けばよかったと思ったが、なんせガイド本もない私達。そのような素敵な町があることも知らず。) 列車の席はファーストクラスの指定席、座席が広くて綺麗で最高!! 座ると直ぐに飲み物の注文を取りに来て、無料でワインとお飲みをもらえる!! で、車窓を見ながらのんびりしていたら、フィレンチェで乗り換えがあるのが分からなくて、次の乗客が来てしまい……。結局、車掌に事情を話し、パスも持っていたためローマで下車することに……。

ローマ駅は首都らしく大きく綺麗。エスプレッソのカフェが目立つ。イタリアらしい。今日の宿がない私たちは早速ホテル紹介所へ。ドミトリーのホテルを紹介してもらい、二段ベッドの6人部屋に3泊することにした。部屋に換気扇のないシャワー室があって快適ではないけど、私たちの予算では仕方ない。

翌日は朝からバチカンへ。9時半ごろには到着したはずだが沢山の人。バチカン博物館にも行くが長い行列で1時間待ち。しかし、行くだけの価値あり。美しいタペストリーや彫刻。ミケランジェロが描いた壁画は大きく、首を痛くしながら眺めた。結局食事時間も入れて、バチカンを出たのは16時過ぎ。それからスペイン広場やトレビアの泉を観光してローマ1日目終了。

ローマ2日目は、コロッセオ周辺を散策。ローマの町は歩けばなんらかの遺跡に辿り着く感じで、いたるところに遺跡や博物館、教会があり見るもの盛りだくさんである。ほとんどフリーの地図だけで観光し、面白そうなものがあると立ち止まるスタイルであるがなんとかなるな~と思った。この日はコロッセオを見学。チケットを買うだけで30分待ち。5月なのに人気の都市だけあって人が多い。コロッセオ中央部にはいくつにも仕切られた壁があった。本来はこの上に板を敷いて床があったと説明の絵には書かれていた。その床には下から猛獣や人間が出てくる仕掛けがあったそうだ。人間と猛獣を戦わせて喜んでいたりとかちょっと信じられない。昔の人はそれが面白かったのだろうか？

その後はローマの休日に出てきた「真実の口」を探したが見つからず、通りがかりの教会での結婚式を見たり、ある門の鍵穴に群がる人がいたので並んで覗いたら、遠くのバチカンの屋根が見えるだけのがっかり体験などをしながら2日目終了。

ローマ3日目は初日の中に入れなかったバチカンの教会を見学した後、午後より列車でフィレンツェへ移動。雨だったので久々にバックパックを担いでみたが、15分歩くだけでも肩が痛くて、とても大荷物を担いでバックパッカーにはなれないな~と改めて感じた。駅についたら早速ゴロゴロカートに荷物をくくりつける。

列車を待つ間、朝作ったサンドイッチなどを食べていると、友人より突然「ケチケチする旅が嫌だ。この調子で行くと旅を続けていく自信がない」と言われた。快適ではないドミトリーや毎日歩き回る生活にストレスが溜まってきたか？また、外食は出来たら1日1回、それ以外はスーパーで購入したもので自炊するスタイルが嫌だったのか？えっ、まだやっとヨーロッパの旅行が始まったばかりなのに?? 私はこのままでもいいけど……。性格の違う2人での旅を始めて、丁度2ヶ月が経とうとしているところだった。さて、これからどうしよう……。とりあえずユーレールパスがあと何回使用できるかを見て、旅の計画を立て直した。列車内では特に話すこともなく、お互いに旅の記録をしたり仮眠を取ったり。

その日は19時過ぎにフィレンツェ到着。そこから予約しているユースホテルまでバスで1時間。ホテルに到着したのは21時前だった。とにかくその日は休むことにした。さて、これからの旅、どうなることでしょう。。。。。

6. サーバス九州会員情報

○ 新入会員紹介

O. K.さん 北九州市在住 (2017年6月入会)

○ 九州支部会員数 49 家族 (福岡12名、佐賀6名、長崎9名 熊本3名 大分11名、宮崎6名、鹿児島2名)

7. サーバス九州からのお知らせとお願い

レポートについて

サーバス旅行をしたり、トラベラーを受け入れた場合はその時の様子をぜひレポート（簡単な一口コメントでも結構です）をお送りくださるようお願いいたします。次回の会報に掲載させていただきます。

トラベラーを受け入れた場合は

○トラベラーの国名、 ②トラベラーの名前、 ③ステイされた人数、 ④受け入れ期間：○年○月○日～○年○月○日、○泊○日、 ⑤一頃感想をメモしておいてください。12月に日本サーバスへの報告に必要です。受け入れられたらすぐ支部長宛てにメールをくださっても構いません。

2017年度の会費納入のお知らせ

年会費 3,000 円の納入をお願いします。1月末までにお支払いいただく事になっています。まだお済みでない方は、会計の処理上お早くお支払いいただくようお願いします。郵便口座をお持ちでしたら振り込み手数料無しで送金できます。口座番号は下に記しています。

8. サーバス九州連絡先（常掲）

発行日：2017年9月20日（177号）

発行者：サーバス九州支部長

【会費、認定料等の送金は以下をお願いします】

- 郵便口座をお持ちでしたらその口座からサーバス九州事務局の郵便口座へは送金手数料無料で振り込みできます。
記号：17240 番号：17160361
名称：サーバス九州事務局
- 銀行から振り込む場合 送金手数料は有料です。
店名：七二八（ナナニハチ）
店番：728 種類：普通
番号：1716036（有料）（これには末尾1不要）